

■「海ごみサミット・佐渡会議」の開催

J E A N / クリーンアップ全国事務局

1. 事業の目的と概要

○離島でのサミット開催から発信を

海洋ごみ、海岸漂着ごみの多くは私たちの暮らしを発生源とする河川由来のもので、

この問題解決に向け全国各地の自治体やボランティアなどの活発な活動、取り組みが進められていますが、より深刻な環境問題になってきています。この問題の原因は複雑、多様であり、その解決・改善には各セクターが主体的に取り組み、さらにネットワーク的に連携しながら複層的、継続的な取り組みが不可欠かつ最重要課題です。

J E A N / クリーンアップ全国事務局では、1990年代初頭から国内の海岸漂着ごみに焦点をあて、海洋ごみ問題を地球環境問題の一つとして捉え、その解決に向けた活動を進めてきました。さらに多様な主体による取り組み体制の構築等を目指し、2003年より飛島（山形県）、対馬（長崎県）、隠岐（島根県）、羅臼（北海道）と場所を変え「島ごみ（海ごみ）サミット」を開催してきました。昨年7月に羅臼町で開催した「海ごみサミット・らうす会議」では地域の海ごみ対策を進めるための「地域版プラットフォーム」（地域における連携・対策のための受け皿・推進組織）の役割、体制などについて、関係者とともに確認し、「知床・らうす宣言」により地域でも着実に努力していくことが表明されました。

これら一連の会議、対応等における情報の共有や討議の積み重ねを踏まえ、新潟県佐渡市において「海ごみサミット 佐渡会議」を開催し、首長セッション、全体討議を経てアピール文、宣言文を確認することができました。

本会議では、関係省庁の取り組み等を含め情報共有を図るとともに、海洋ごみ対策のための地域版プラットフォームの「かたち」を討議、提示し、今後の活動の促進を図っていくための効果的な施策等について検討を行いました。

2. 7月1日 海岸漂着ごみ視察と清掃活動

海ごみサミットでは、関係者の意識づくりのためにクリーンアップのプログラムを設けました。

○参加者 213名 ○ごみ回収量 約10t

3. 7月2日 フォーラム

海ごみ問題の解決に向けて情報の共有を図るとともに、地域ごとの状況や活動している各セクターの考え方などから可能性を探るための意見交換、討議を行うフォーラムを開催しました。

4. 海ごみサミット・佐渡会議」開催の成果

○海ごみ被害甚大な地域の首長が一堂に会した

- ・本サミットにおいて被害甚大な沿岸を抱える自治体の首長がはじめて顔を合わせることになりました。
- ・これまで地先の自治体が市民、NGOなどとともに個別に取り組んできた漂着ごみの回収、処理の現状を共有するとともに、国レベルでの取り組みに対する課題の確認、さらなる対策の促進を連携して進める大きな契機になりました。

○海外との情報共有

- ・また、国内での情報共有だけでなく韓国など東シナ海や日本海を共有する隣接する国々とともに対応策の状況や手法について確認できたことも大きな成果としてあげられます。

○地域のNGO、NPOとの連携、協力

- ・佐渡市や新潟市で環境活動を行っているNGO、NGOとの連携、協力も図り、展示報告や他地域との連携にもつながりました。



七浦海岸での清掃